

市立四日市病院の建替えについて

病院施設更新計画検討事業

はじめに

- 当院は、昭和53年に現在地へ移転新築後、40年以上が経過しているが、目標耐用年数である60年を迎える令和20年（2038年）頃までは、現在地で病院運営を継続していくこととしている。
- その目標耐用年数を迎える令和20年以降の新たな病院施設での切れ目のない運営を見据えて、令和6年度から病院施設更新計画策定に向けた取り組みに着手するとともに、現総合計画の中間見直し（分野別基本政策）においても、病院施設の更新について検討及び取り組みを進めることを新たに盛り込んだところである。

令和6年度（1年目）に実施した病院施設更新計画策定に向けた課題抽出・整理について

- ・ 現在地において病院施設の建て替えが可能か客観的に判断するため、現在地及び近隣用地に病院を建て替えることを想定した場合の工事・建物計画について検討を行い、現在地建て替えに起因する様々な課題の抽出・整理を実施した。

検討結果

診療業務に影響を与えることなく新病院建築は不可能ではないが、動線効率や部門間連携が良い機能的な病院を実現できない可能性が高い。
また、工事期間中における患者駐車場の運用面や不足する職員駐車場への対応面で課題があるほか、商業施設の移転や生活道路の廃止・付け替えが必要となるなど、地元を与える影響が極めて大きい。

令和7年度（2年目）の病院施設更新計画策定に向けた基礎調査について

- ・ あり方検討を実施するため、当院を取り巻く環境の把握・分析や患者数の将来予測といった外部環境、及び当院の経営状況をはじめとする現状把握・分析といった内部環境について、基礎的な情報の調査・整理を今現在進めているところである。

○ 調査内容

- ・ 外部環境調査：二次医療圏の医療機関の分布状況、人口動態・患者数の将来予測、周辺医療機関の整備状況等
- ・ 内部環境調査：経営状況、診療状況、職員配置状況等

令和7～8年度（3年目）の病院施設更新計画策定に向けたあり方検討について

- ・ 地元医療関係者、学識経験者等から構成する「市立四日市病院あり方検討委員会（仮称）」を設置し、新たな地域医療構想を踏まえた新病院の目指す姿や使命・役割のほか、医療機能をはじめとする将来の方向性といった当院のあり方について検討を行う。（R7～8年度の債務負担行為を設定し、R8年度当初より早々に取り掛かる。）

○ あり方検討の主な検討項目等

- ・ 新病院の目指す姿、果たすべき使命・役割
- ・ 新病院に必要とされる医療機能、新病院の望ましい立地条件
- ・ 市民アンケートの実施

令和7年1月に実施された市議会 産業生活常任委員会 休会中所管事務調査において、現在地での建て替えの課題について説明を行ったところ、委員から早期に移転新築についても検討していくよう意見を受けた。これを受け、令和8年度に設置するあり方検討委員会での議論を参考にし、「移転」する場合の建設候補地を下記の条件にて検討していく。

病院の建て替えに伴う建設地については、これまでも市議会の場をはじめとして様々な議論がされてきており、過去の経緯も十分に踏まえたうえで、現在地で建て替える場合（令和6年度業務）と移転建て替える場合を比較検討することにより市民にとって最適な建設地の選定を行っていきたい。

抽出条件

✓ 自然災害に強い地域

内陸部の海拔5m地点を結んだ津波避難目標ラインよりも山側に位置する地域

✓ 鉄道駅からのアクセス

公共交通機関を利用する患者の利便性を考慮し、四日市市の公共交通の結節点である近鉄四日市駅をはじめとする鉄道駅からアクセスが可能な場所

✓ 新病院が建設可能な規模の土地を確保

駐車場や医療需要の変化に対応可能で、将来の施設更新が可能な敷地規模

✓ 市街化区域を優先

市街化調整区域は、農地や森林を守ることに重点が置かれ、市街化が進まないよう抑える区域であるため、市街化区域を優先